

1 年特設科学[未来の身体 -拡張現実感 (AR) による身体の拡張-]

9 月 5 日 (金)、追手門学院大学の佐藤 宏介先生をお招きし、「未来の身体 -拡張現実感 (AR) による身体の拡張-」というタイトルで、ご講演いただきました。

現実空間と仮想空間を融合させる技術や、身体能力の拡張を可能にする技術について、実際に機器を見せていただきながらご紹介していただき、また、質疑応答も交えながら AI の可能性や理想的な付き合い方についてもお話をいただきました。

今回の講義で学んだことを未来の実生活に活かしてくれることを期待します。



生徒たちの声

大学の先生から貴重な話を聞き、とても興味深く感じる部分が多く、有意義な時間になったと思います。特に、授業の間の休み時間でメガネを通して見た現実世界の景色がとても印象に残りました。あのメガネが研究を重ねるごとに小型化され、私たちの手に届くまでそう遠くないと考えると心踊らずにはいられません。私も大学に進学した先あのような研究もしてみたいと感じられました。

今回の講座で、人工知能がどれだけ進歩しているのか感じることができました。自動運転などは結構前から話題としてよく取り上げられていましたが、まだ先の話だと思っていました。でも、中国では実際に街中を自動運転の車が走っていると知って、日本でも近いうちに無人タクシーが使われたりするのかなと思いました。また、最初の方に映像で見た道具を届けていたロボットが、とても滑らかに動いていて、ロボットの進化も感じました。

今時の話題で、とても興味深い話でした。AI がどこまで進化できるのかというワクワクする想像と、どこまで人間の立ち位置を奪うのかという恐怖の部分まで感じられました。特に、全人類の行動パターンを理解して、分析できているというのがすごいところであり、怖いところでもあります。自分がこれから人間としてどのような立場を確立していくのか、しっかり考えて将来のことを決めたいと思います。

今回の特設科学講座では一番印象に残ったことは、生物の光スイッチ説とロボットの進化が似ているという点です。光スイッチ説は、カンブリア紀に生物が目を手に入れたことで生物が急速に進化したというもので、ロボットも同じように眼 (カメラ) を手に入れたことで、急速に進化しました。「このように、ロボットの進化は、生物の進化のように進んでいくのかな?」と疑問に思いました。そして、興味を持ちました。

今の AI がどんな経緯があってどれくらいの技術やスキルを手に入れたか、未来の AI がいつ、どれくらいの技術やスキルを手に入れるかを話してくれて AI を使う身としてとても参考になった。特に生物・機械・組織といった多様なシステムに共通する制御や通信の仕組みを研究する学問であるサイバネティクスを学びたい。また家でチャット GPT に質問してみたいと思った。